

【資料】平安京東市跡 鎌倉時代の職人町存在を示す数々の鍛冶工房遺物出土

出土遺物から この地は平安時代から引き続き続く中世 都の商業地と確認

龍谷大学大宮キャンパス 発掘調査現場見学 2016. 9.16.



発掘調査地 全図 2016.7.20 撮影 発掘調査現場展示パネルより



10月16日朝 インターネットニュースをチェックしていて、「平安京の「東市」の跡地より、七條大路にそう鎌倉時代の家並みが出土し、その裏庭には鍛冶工房があった」との記事を見つけ。京都市街地からの鍛冶工房に興味津々。常々 王城の地 京都の市街地から 鍛冶工房が出土しないのを不思議に思っていました。

場所は よく知る西本願寺の南隣 七條通りに面した龍谷大大宮キャンパス。午後 現地説明会があると知って、中世の街並の中にある鍛冶工房に興味津々で出かけました。

初めて知る中世の町屋の家並み 町屋の裏のごみ処理の土坑群にびっくり。

また、町屋裏庭の土坑から鍛冶関連遺物の出土により、鍛冶工房の存在が推察されるが、鍛冶炉跡は不明であり、生産された製品もよくわからず、さらなる検討が必要に思えました。でも 初めて見る京都市街地での鍛冶工房の可能性に満足。

現地説明会に立たれた龍谷大國下多美樹教授は今回の発掘の成果を「この平安京東市跡の鎌倉時代の賑わいは当時描かれた一遍上人絵伝にもえがかれており、平安時代から引き続きこの地が鍛冶職人などを中心として繁栄した職人町であることが確認された」とまとめられた。

この遺跡の評価はまだこれからですが、久しぶりに出かけた製鉄関連偉関の現地説明会。 現説資料並びに発掘現場の写真などを抜粋整理しました。 なお 下記「和鉄の道・Iron Road」に発掘現場の様子をスライド動画にして掲載しています。

● 【スライド動画】平安京東市跡から鎌倉時代の職人町屋出土

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1611ryukokuomiya00.htm>

2016.10.16. 現地説明会資料 2016.10.16. 龍谷大学文学部発行

龍谷大学大宮キャンパス 東覺建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査

平安京左京七条二坊五町-東市跡-の調査

龍谷大大宮キャンパスから七條大路に面した鎌倉時代の商業職人町の家並み出土 奥には鍛冶工房跡

平安京「東市」は鎌倉以降も商業地 京都市・龍谷大、鍛冶工房跡を確認

京都新聞 10月14日(金)9時0分配信



鎌倉時代の鍛冶工房の作業場跡(調査員が指している部分)や井戸(左奥)などが見つかった発掘調査地(京都市下京区・龍谷大大宮キャンパス)

龍谷大は13日、京都市下京区の龍谷大大宮キャンパスの発掘調査で、鎌倉時代の鍛冶工房を備えた町家の遺構が見つかったと発表した。調査地は平安京の公営市場「東市」の一角。東市は11世紀までに廃れたとみられるが、鎌倉時代以降も商業地として栄えていたことを示す成果として注目される。

調査地は、平安京の七条大路に当たる七条通の北側で、通りに近い南側で鎌倉～室町時代前期の直径20センチほどの柱跡約50カ所や井戸を確認。北側で炭や鉄くぎ、砥石(といし)などを発見した。通りに面して小規模の建物が密集して並び、裏手に鉄の鍛冶工房があったとみられる。

東市が廃れて以降、商工業の中心はJR京都駅北側の「八条院町」など東に移ったと考えられていた。

室町後半の町家に付随したとみられる地下式倉庫跡もあり、同志社大の鋤柄俊夫教授(考古学)は「東市跡の調査事例は少ない。七条大路に沿って中世の繁華街が広がっていたと確認できる貴重な発見」と話す。

また室町前期の穴から、青銅製鍋(直径23センチ)もほぼ完全な状態で見つかった。調査した龍谷大の國下多美樹教授(考古学)は「この時期の保存状態が良い青銅製鍋の出土は全国的に珍しい。当時は貴重品で、有力者が祭事を行った可能性もある」と指摘する。16日午前11時～午後3時、現地説明会を開く。問い合わせは龍谷大大宮キャンパスTEL075(343)3311。

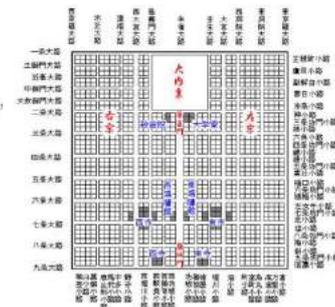
10月16日朝 インターネットニュースをチェックしていて、「平安京の「東市」の跡地より、七條大路にそって鎌倉時代の家並みが出土し、その裏庭には鍛冶工房があった」との記事を見つけた。

常々 王城の地 京都の市街地からも鍛冶工房が出土しないのを不思議に思っていた。場所はよく知る西本願寺の南隣 七條通りに面した龍谷大大宮キャンパス。午後 現地説明会があると知って、中世の街並みの中にある鍛冶工房に興味津々で出かけました。

「東市」鎌倉以降も商業地



一遍上人絵伝に描かれている元平安京東市 七条大路界隈の賑わい



平安京以降 度重なる戦火に見舞われ、京の街の中心は東へ移った。平安京の東市も衰退したとみられていたが、商業地としての街並みは残っていた。

■ 龍谷大学 大宮キャンパス内 発掘調査現場 現地説明会の風景 2016.10.16.

場所は堀川七条の北西角にある興正寺の東に隣接する龍谷大学大宮キャンパスの本館正門前

東覚建替えに工事に伴う埋蔵文化財発掘調査部分で、北側には西本願寺があり、西本願寺 御影堂・阿彌陀堂の大屋根や唐門が塀の向こうにあり、西には明治の洋館 龍谷大学大宮キャンパス本館などの学舎が見えている。



西側中央より調査区全景 左:調査区1 町屋築地部 右:調査区2 南の堀川に面する町屋部
正面奥に坐落にある興正寺の大屋根が見えている



今回現地説明会がある鎌倉時代の鍛冶工房がある家並が出土した
龍谷大学大宮キャンパス発掘調査現場 2016.10.16.



調査区1: 多数の土坑が掘られている調査区1の概観



鉄器や明瓦片・磁石など鍛冶関係遺物が出土した調査区4の土坑1・2

■ 出土した遺構と遺物発掘調査の成果ポイント 中世 鎌倉時代～南北朝・室町時代の遺構と遺物

通りに面した掘っ立て柱建物と井戸 裏には作業小屋・廃棄土坑・井戸など

通りに面して建ち並ぶ中世京町屋の家並みの姿が明らかになりました。

また、裏庭に掘られた土坑の多さにはびっくりまた この土坑群から 下記の遺物が多数出土

- ◆ 鍛冶工房の存在を示す炭・焼土・鉄滓・砥石・炉羽口片・鉄釘 など鍛冶関連遺物や青銅製鍋
- ◆ 土師器・須恵器・国産陶器・輸入登記・銭貨・木製品



調査地区 1.

町屋裏庭

通りに面した町屋の裏の部分で、数多くの土坑(ごみ捨て場)が 作業場跡や井戸などと一緒に出土。土坑より鍛冶関連遺物や中世町屋から出た数多くの遺物が出土した



調査地区 2.

町屋表

調査区 1 とは異なって通りに面して掘っ立て柱建物の町屋が建ち並ぶ部分で、丸くきれいな柱穴が密集して存在する。

調査区 2. 南の通りに面した町屋が並ぶ町屋表部分
調査区 1 と異なりきれいに丸く掘られた柱穴が密集して見つかり、
中世の京町屋の特徴をよく示している

調査区 1 と調査区 2 は 本来それぞれの家と一緒に繋がっており、
2つの調査区で 表通りに面した鎌倉時代の職人町の家並を構成している

発掘調査の成果

★成果のポイント

①七条大路に面する中世町家の解明

鎌倉時代の鍛冶工房と建物跡、南北朝～室町時代前半の地盤改良跡、区画溝、土坑等、室町時代後半の地下式倉庫跡と井戸などが確認されました。中世の七条市町は、八条院町とともに手工業者が集住し、鉄を中心とする生産活動を行う商工業の中心地として栄えたことが一層明確になりました。

②完全な形で南北朝時代の青銅製の鍋が出土

南北朝時代の土坑（大きな穴）から出土しました。鉄製鍋を模倣したもので、精巧なつくりです。遺跡から完成品の出土は極めて珍しい例です。有力者が仏事や儀式に使用した可能性があります。

③近世初頭以降の下町家邸宅の実態解明

当地は、天正19年（1591）の本願寺の当地移転以来、坊官である下町家の邸宅になりました。その一画に池や瓦葺き建物が存在したことが明らかになりました。

<平安時代の遺構と遺物>

第2調査区で、平安時代前期の土坑を確認しました。東市に関するものと推定されます。

<鎌倉時代～南北朝・室町時代の遺構と遺物>

鎌倉時代は、不整形土坑6基（土坑1・2・17～20・24）、井戸9、溝15、柱穴他を確認しました。土坑1・2からは、炭や焼土とともに鉄釘、鉄滓、砥石が出土するので、鉄を素材とする小型品の鍛造を行う小鍛冶に関連する遺構と推定されます。井戸16は相当規模の縦板組井戸です。

南北朝～室町時代前半では、第1調査区で青銅鍋を伴う土坑10、区画溝12～14、布張り礎石列12、多量の土器が廃棄された土坑6、第2調査区では、河原石を使った南北方向の地盤改良跡21、素掘りの南北溝15、土坑22などがあります。

室町時代後半では、地下式倉庫4・5、井戸7・8、土坑3を確認しました。

中世の遺構は、表側にあたる七条大路に面して建物が建てられ、裏手にあたる北側には鉄の鍛造工房やごみ捨て穴が設けられていたことを示します。

また、当時貴重であった青銅製鍋の出土は、当地に商工業者とともに有力者が係わったことを示します。なお、この時代の遺物には、土師器、須恵器、国産陶器、輸入陶磁器、銭貨、木製品とともに、青銅製品、鉄製品、鉄滓、ふいご羽口、石製品などがあります。

<近世～近代の遺構と遺物>

近世～近代では、第1調査区で池状遺構、溝、礎石建物、堀跡、道路状遺構を確認しました。特に、西端で確認した池状遺構は、本願寺が当地に置かれた安土・桃山時代に造られたことがわかり、多量の近世前半期の瓦や土器が出土しました。第2調査区では、近世末～近代の土堀跡を確認しました。これらの遺構は、本願寺の坊官である下町家の邸宅にかかわる資料と推定されます。

<他の時代の遺構と遺物>

後世の遺構から、弥生時代中期初頭の弥生土器、古墳時代初頭の土師器が出土しています。当地における最初の開発を示す資料でしょう。なお、最下層で扇状地堆積を示す砂礫層を確認しました。



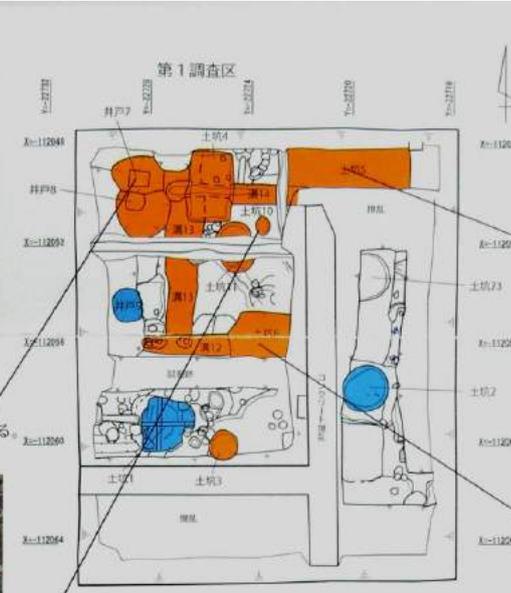
井戸7 縦板組井戸。薄板を重ね棒材を横棧にする。横棧が抜け崩落した状態で発見された。



南北朝時代の青銅製鍋 土坑10出土。径0.75mの不整形な土坑内で逆転して出土した。土師器小皿片が伴う。青銅製鍋の完成品出土は、極めて珍しい。



室町～南北朝時代の地業21 南北7.5mにわたり河床礫を帯状に敷き詰め土を充填した布張り遺構。倉庫ないし築地（ついで）の基礎と推定される。



調査地平面図（中世、1/200）



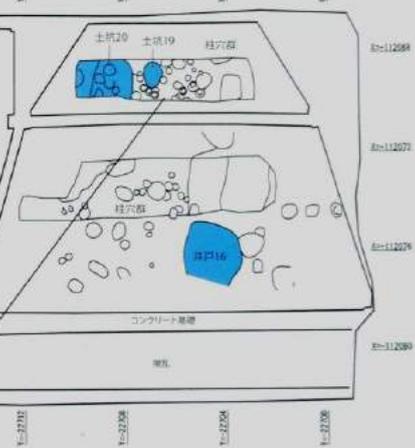
中世の工房関連資料 鉄滓・ふいご・鉄釘



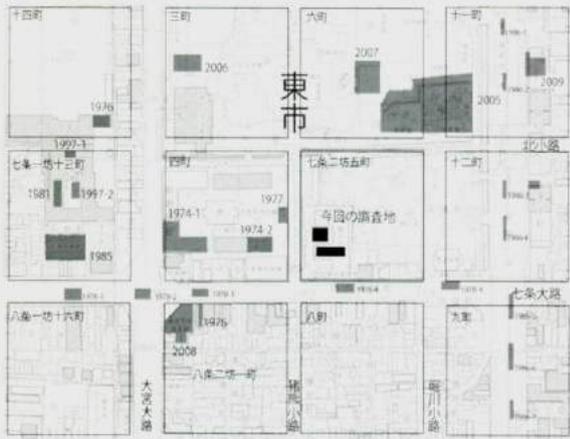
土坑5 倉庫か。長方形の形に掘込み、礎石を置く。



土坑6 径10cm程度の土師器小皿が大量出土。

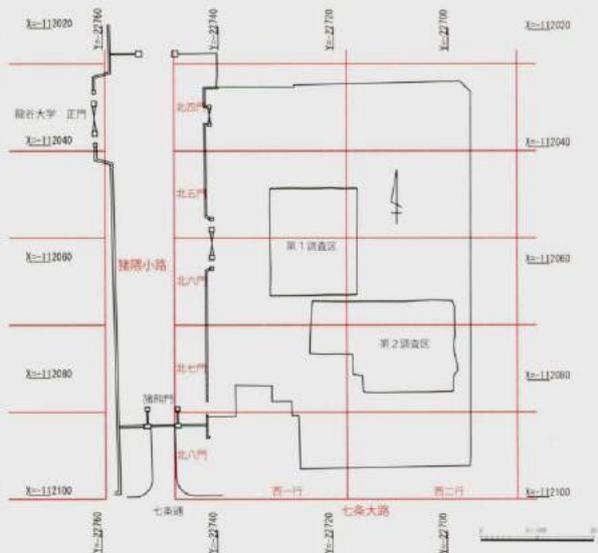


中世の柱穴群 七条大路に面する場所は建物が多い。



調査地の位置と過去の主要な調査

調査地は、七条大路に面する左京七条二坊五町南西部に位置します。あわせて、周辺の過去の調査を示しました。調査年度は四桁の数字で表示しました。



平安京の四行八門制における位置関係図

四行八門制は、約 120m 四方の広さをもつ宅地を東西に 4 分割、南北に 8 分割する平安時代の町割りです。今回の調査区は、西一・二行、北五・六門に位置することがわかります。



近世前半の池状遺構の瓦投棄 池状遺構の底面には大量の近世瓦が出土しました。近世下間屋敷に係わる資料です。



近世後半の漆喰池 漆喰でヒョウタン形に仕上げた池状遺構。市内公家屋敷の類例から金魚飼育の池と推定されます。



近世～近代の主要遺構配置図 (1/500)

近世 西本願寺の坊官 下間屋敷に係わる遺構が出土

◆ 龍谷大大宮キャンパス界限

龍谷大 大宮キャンパス内の発掘調査現場は堀川七条の北西角にある興正寺の東に隣接し、南北の通りの両側に龍谷大学大宮キャンパスがある本館正門前。東側東覺建替えに工事に伴う埋蔵文化財発掘調査部分。北側には西本願寺があり、西本願寺 国宝の唐門や御影堂・阿弥陀堂の大屋根などが塀の向こうに見える。また、南北の通りを挟んで 西側には重要文化財の明治の洋館が建ち並び龍谷大大宮キャンパスで本願寺・東寺美観地区の一角でもある心地よい大学の雰囲気漂っている。特に、明治の美しい洋館の学舎が建ち並び大宮キャンパスの中を散策してみたい場所でした。また、紅葉には少し早かったのですが、日曜日 学生もおらず、静かなもので 本館の中も見学できました。重要文化財の明治の洋館が建ち並び龍谷大大宮キャンパスと国宝西本願寺唐門

